

月刊 あなたにこの本を！ 平成 26 年 10 月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。



…字が大きめ



…中高生にも



…図・写真が多い

※価格のあとの()内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。

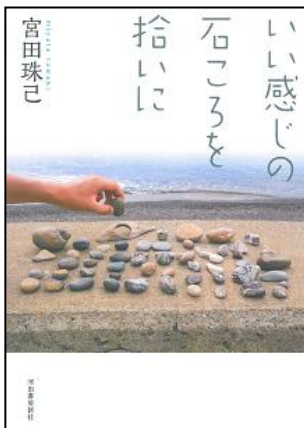


死体搜索犬ソロが見た驚くべき世界

カット・ワレン 著 日向やよい 訳
エクスナレッジ 2200 円
(0012996954)

ジャンル：知識・教養を深める

日本ではあまりなじみのない死体搜索犬だが、その対象は行方不明者や犯罪がらみのもの、戦場に残された兵士など多岐にわたる。死体搜索犬であるソロは警察等の組織に所属しておらず、ボランティアとして活動している。本書は、著者が試行錯誤しつつ、愛犬ソロを死体搜索犬に育てる物語を中心に、人とともに働く犬たちについて多様な角度から描く。仕事内容や訓練の様子などは興味深く、犬とそのパートナーである人が交わす深い愛情には感動を覚える。[317.953]



いい感じの石ころを拾いに



宮田珠己 著
河出書房新社 1600 円
(0012986628)

ジャンル：暮らしにうるおいを

長年、石に興味を持っていたという著者が、全国各地の海辺や川原へ石を拾う旅に出た。著者が求めるのは、ごつごつした鉱物ではなく、形や色や模様や触り心地がいい石ころだ。奇岩ガールらと出かけては拾った石を見せ合う。また、雑誌『愛石』の編集長からは、何が見どころかわからない石を見せられ、困惑する。石に向けての様々な人の愛情が微笑ましく伝わってくる。掲載されている石はどれも魅力的で、読後には「いい感じの石ころ」を探したくなる。[458]



北京食堂の夕暮れ

沢野ひとし 著
本の雑誌社 1800 円
(0012937317)

ジャンル：暮らしにうるおいを

イラストレーターの著者は、日中関係が悪化し始めた 2010 年秋に、こういう時勢だからこそと、中国を訪れるようになった。北京の下町で金色に輝く粥(かゆ)を食べればそのおいしさに感激し、本場の紹興酒を飲めば酒を愛した李白の詩が口をついて出る。急速に変わり行く中国の今が描かれる一方で、現地の人々との交流からは、ゆったりとした時の流れとおおらかさが伝わってくる。エッセイに添えられたイラストも味わい深く、旅心が一層かき立てられる。[E サワノ]

ドキュメント豪雨災害 ーそのとき人は何を見るかー

稲泉 連 著
岩波書店 780 円
(0013012112)

ジャンル：現代社会を見つめる

2011 年9月、台風 12 号が奈良県と和歌山県に豪雨をもたらし、100 人近くの犠牲者を出した。著者は、その現場を取材し、住民や町長などからの証言をもとに何が起こったかをたどる。避難所にいた住民からは、山崩れの音が響く中で、不安な一夜を過ごした体験が生々しく語られる。豪雨災害は、山間部だけではなく、首都圏でも起こりうると著者は説明し、葛飾区や江戸川区での減災への取り組みを紹介する。突然襲う大雨による災害の実態に迫る一冊だ。〔369.3〕

「子育て」という政治 ー少子化なのになぜ待機児童が生まれるのか？ー

猪熊弘子 著
KADOKAWA 800 円
(0013023196)

ジャンル：現代社会を見つめる

「待機児童」や「保活」といった言葉を耳にした人は多いだろう。少子化が叫ばれる中、保育所に入所できない子がなぜ存在するのかを詳細な調査結果をもとにわかりやすく解説する。著者が取材を重ねて見えてきたのは、子育てと政治の密接な関係だという。「親にとっての便利は子どもにとっての不便」と、保護者の利便性だけでなく、子ども目線で考えてほしい、と語る著者の言葉が印象に残る。子どもに係わるすべての人におすすめの一冊。〔369.42〕

小さき生物たちの大いなる新技術

今泉忠明 著
ベストセラーズ 819 円
(0012902649)

ジャンル：知識・教養を深める

本書は、生物の習性や機能を応用するバイオテクノロジーの中でも、近年特に注目されているバイオミミクリー（生物模倣）について紹介する。フクロウの翼の消音の仕組みから開発した新幹線のパンタグラフ、毛づくろいをする猫の舌の構造をまねたゴミ圧縮掃除機など、数々の模倣が生活を快適にしている。人間は自然に学ぼうと奮闘しているが、まだその技術は解明されていないことが多い。身近な生き物たちが備える人知の及ばない超技術には圧倒される。〔464〕

なにわの華 文楽へのいざない ー人形遣い桐竹勘十郎ー



桐竹勘十郎 著
淡交社 2000 円
(0012977665)

ジャンル：大阪にゆかりの本

人形浄瑠璃・文楽は、太夫、三味線、人形遣いの三業一体となった日本の伝統芸能だ。本書は、人形遣いである三代目桐竹勘十郎自身による半生の記録と作品への思いを、臨場感あふれる舞台写真を交えて語る。父と同じ文楽の世界に自然と足を踏み入れた著者が、厳しい人形遣いの世界で挫折を味わいながら芸を磨く姿には胸をうたれる。子ども向けテレビ番組の出演や海外公演など文楽の普及に尽力し、人形は恋人以上の存在と語る著者の愛情あふれる文楽案内書だ。〔777.1〕